THE WORKSHOP ーみんなの憩い編ー
公園ワークショップ
第２回 みんなでつくる推しの公園 報告①

■期日／ 2025 年 2 月 16 日 (日)
14:00〜16:30
■場所／リブリオ行橋 スタジオ A
■参加人数／ 15 名
■講師／新田新一郎

２月 16 日（日）リブリオ行橋にて**「THE WORKSHOP〜みんなの憩い編〜第２回公園ワークショップ」**を開催しました。
今回のワークショップのテーマは、**「みんなでつくる推しの公園」**。
まずは、全国各地で子どもが育つまちづくり事業を展開している講師の新田新一郎より前回のワークショップで話し合われた公園についての説明、またいろいろな事例の紹介をお話しし、その後３つのグループに分かれて**①維持管理（誰が）②ルールづくり（どのように）③推しの公園（こんな公園を作っていきたい）**という内容について話し合いました。この報告①では、参加者のみなさんが発表された内容です。ご覧ください。
（各タイトルは各グループでまとめた表題です。）

■公園の維持管理について（誰が）

■新しい地域コミュニティと次の世代へのバトン

・企業 (公園の特徴に合った地元の企業) に参加してもらう
・学童保育施設を併設して子どもと一緒に管理していく
・大学生などのグループが参加（ボランディアサークルなど）
・区長などが管理して運営は老人会や学童保育などのボランティア
・地元に合わせた維持管理の仕方を考える

※いろいろな団体がつながり、一緒に公園づくりをしていく

■世代を超えて・エリアごとに・いろいろな人たちが連携し リーダーシップを取れる体制

・子どもが参加（お茶やお菓子で世代交流をしながら）
・地域の方と地域の保育園、小中学校の活動にする
・花植え好きな人の集まりが維持管理
・好きなものでつながるコミュニティの集まりで維持管理
・時間のある高齢者が参加する（外に出るきっかけにも）
・活動に参加することでコモちゃんポイントが貯まる公園
・市民と行政の連携

■公園のルールづくりについて（どのように）

■「これはできるぞルール」

・「できない」ではなく、この公園では「こんな遊びができる」というルールを作るのはどうか。そのために、いろいろな遊びや作業のリーダーがいる公園にする。
・小学校で子どもだけでワークショップをしたり、参観日に親子でワークショップをして、ルールづくりの段階から参画する。
・市民主体のルールづくり

■自由と実情のバランス

・公園の場所に合わせたルールづくり（住宅地に近い、商業施設内など）
・現実的なルールを設定していく（厳しすぎると気軽な利用ができない）
・自由に遊べるというルール

■市民の声を聞く （QR コード等）

・ダメが前提ではないルールづくり
・地域の高齢者、若者、子どもの声を聞いてルールを作成
・ネガティブなルールを作らない

■推しの公園（こんな公園を作っていきたい）

出会いの場としての公園
・出会いの場を創出できる公園
・みんなが気軽に集まれる
・お祭りマルシェができる
・たくさんのイベントがある
・いろいろと活用できる芝生広場

体験型の公園
・いつでも畑づくりに参加できる
・子育てファミリー若い世代に経験者が教える貸し農園
・遊具の貸し出しがある
・遊びながら学べる
・防災を学べる
・職業体験ができる
・クッキングができる
・公園内にものづくりスペース

安心して遊べる公園
・公園の出入りが安全にできる
・0 歳からお父さんお母さんまで安心
・目が離せる
・小さい子も走り回れる
・大人がいなくても子どもが駄菓子など買い物できる

したいことができる公園
・サッカーのできる草場の広場
・自転車練習
・ボール遊びができる公園
・スケボーができる公園
・ただただ広い所（市営住宅跡地）
・交通ルールを学べる公園
・ゴーカートで走れる公園
・RV パーク・ドローン飛ばしてもいい公園

自然体験
・緑が豊かな公園
・泥団子ができる　土水　洗い場
・涼しい（日除け・水が流れる）
・動物も一緒に遊べる公園
・メダカや小川の流れる公園
・ボート・カヌーに乗れる・いかだコンテスト

その他
・リサイクルでポイントを貯める
・ひきこもりが部屋から出てくるような
・横に図書館がある
・プラネタリウムのある公園
・美味しいものが手軽に・お腹が空いたらすぐに食べられる
・安くておいしいランチが気軽に買える
・キッチンカー・屋台がある公園

■アンケートより

・他の方の意見も聞くことができ、充実した時間を過ごすことができた。
・参加すれば考えることができる人が大勢いると思いました。参加するまでのハードルの高さをクリアすれば、もっとみなさんが自分事で考えることができると思いました。・思っていたよりアカデミックなワークショップで、あらら場違いかなとも思いましたが、なんとかついていきました。コミュニティの再構築、つながりは難しいテーマでした。
・講師の方の話面白かったです。